

栃木県子ども観光大使 が道の駅しもつけで かんぴょう体験

7月21日、栃木県子ども観光大使が、下野市の特産品であるかんぴょうを知ろうと道の駅しもつけを訪れました。

栃木県が行うこの事業は今年で3回目を迎え、かんぴょう家族運営委員会と市文化課職員を講師に、29名の子ども観光大使が参加しました。

かんぴょうの歴史などについて講話を受けたあと、明治時代に使われていた道具「手かなな」を使って夕顔の実を剥いたり、乾燥した瓢に絵付けをして楽しみました。



トウサワトラノオを 通じて吉田西小と 小山北桜高校が交流

7月17日、吉田西小学校と県立小山北桜高校が、下野市に生息する絶滅危惧種の多年草「トウサワトラノオ」を通じた交流事業を行いました。

交流事業では下野市東根のトウサワトラノオ保全地の種がこぼれた土を採取し、吉田西小学校での観察を目的に造った保全地に土を入れました。

小山北桜高校の小林教諭は「地域の子どもたちに日本一のトウサワトラノオがあることを知って欲しい。」と語りました。



市内でお祭り・花火大会が行われました

7月19日にエコライフまつり、8月2日に国分寺地区コミュニティ盆踊り・花火大会が各会場で開かれ、賑わいを見せました。(今年のいしばし納涼盆踊り・花火大会は残念ながら台風の影響により中止となりました。)



しもつけかんぴょう まつりが行われました

7月26日、道の駅しもつけにおいて「第4回しもつけかんぴょうまつり」が行われました。

真夏日となったこの日、多くの来場者がかんぴょう剥き体験や、ふくべの絵付けで楽しみました。

ジャンボふくべコンテストや愛泉幼稚園による演奏会のほか、今年は市内にアユ種苗センターができたこともあり、小学生以下を対象にアユのつかみ取りが行われました。

市内農家という方は、剥いたかんぴょうを干した様子に「白いかんぴょうが風に揺られて優雅。昔は(市内の)どこにでもあった景色」と昔を懐かしみました。

